

クルーズサマリー

1. 航海情報

- 航海番号 KR16-E06
- 船舶名 「かいいい」
- 航海名称 南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト 海域津波履歴研究
- 首席研究者〔所属機関名〕 金松 敏也〔海洋研究開発機構〕
- 課題代表研究者〔所属機関〕 小平 秀一〔地震津波海域観測研究開発センター〕
- 研究課題名 南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト 海域津波履歴研究
- 航海期間 平成28年12月7日(水)～平成28年12月16日(金)
- 出港地～寄港地～帰港地 鹿児島～那覇
- 調査海域名 南西諸島
- プロジェクトの名称 受託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」
- 調査マップ

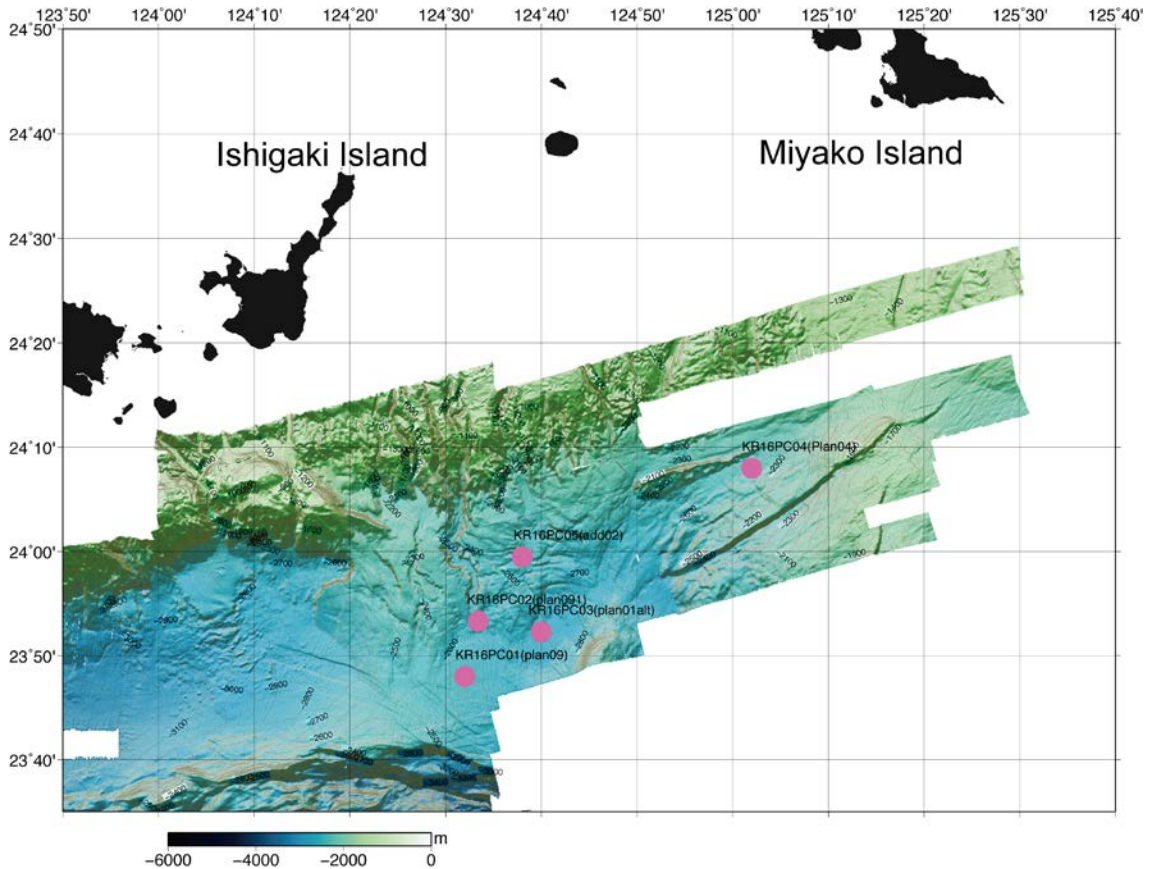


図1：調査海域図。本航海では石垣島～宮古島の南海域を調査した。●は採泥点を示す。地形図は本航海で取得したデータおよび YK15-01、KR16-E06 のデータを使用。

2. 実施内容

● 調査概要

本航海の目的は、文部科学省「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」の一環として、海底堆積物に記録されている南西諸島の巨大津波・巨大地震の再来周期を探るための試料採取であった。南西諸島の沈み込み帯では、過去の津波・地震の記録はあるものの、古文書等の情報が少なく、再来周期や津波破源域の場所など、南海トラフのそれに比べると圧倒的に不明な点が多く、その概要を明らかにする必要がある。今回の調査ではこれまでの調査YK15-01、KR15-18に引き続き石垣島-宮古島南方の前弧海盆地に焦点をあてた。ピストンコアリングが調査中、可能な海況が3日あり、5点の採泥を実施した。他の時間は地形・SBPデータの取得に充てた（図1）。取得したコアには、粗粒シルト～細粒砂粒径の砂層の挟在が認められ、南西諸島の地震津波履歴を記録していると考えられる。